

Q さて、これは何でしょう？



応募締切 / 9月14日 必着
あて先 / 783-8501
南国市大堀甲2301
南国市企画課「親子クイズ」係
賞品 / 正解者の中から抽選で、5名に
図書カード(1,000円)を贈呈

【第459回解答】

マスクメロン
金曜日(起きんよう)
電車(出ん車)
イチョウ(胃腸)
歯医者(はーい者)
棚(たなばたーん)
コーラ
お父さん(あっちっち)

【第459回当選者】

北村 和夫(岡豊町)
高島 君江(田村甲)
高島 光生(田村甲)
渡部 匠太(田村乙)

応募総数 / 16通 正解率 / 25%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に
考えています。

市民からのお便り

先月の親子クイズ「だじゃれなぞなぞ」は今までになく難しかった。図書カードをゲットしたいです。

人権教育の時代 ⑩

人権教育シリーズ

思いがけない入院でした。つらいことが多かったのですが、患者の立場になって初めて気付いた事柄も多く、貴重な経験となりました。元気になった今、私を助けてくれた人たちの顔を懐かしく思い出しています。中でも、入院患者のAさんが忘れられません。

「大丈夫？」そう話し掛けてくれたAさんは、手術後の私の姿がかつての自分と重なったようで、私の病状を心配してくれていました。そのときの私は、合併症で無いぶん落ち込んでいました。惨めな気持ち、先に退院する患者さんに嫉妬する気持ち、そういったものが表情に表れていたかもしれせん。

Aさんは抗がん剤治療のため入院していました。がんは不治の病ではなくなりましたが、やはり恐怖や不安から心身ともに相当しんどくなるのが想像できます。そのまっただ中にいるAさんが「他人事に思えなくてね」と優しく接してくれたことで、私はうれしいうらやらずかしいやらで、「今よくよしても仕方ない!」と、だんだん元気になっていきました。また、お話好きなAさんの元には、ターバンハットをかぶった患者さ

「病室でもらった勇気」

んたちがよく集まっていたのですが、皆さんが副作用のつらさやストレスを互いに語りながら励まし合い、積極的に治療と向き合う姿に感動しました。

ある日、とてもうれしい知らせが舞い込みました。Aさんにお孫さんが誕生したのです。「まだまだ生きるで」と、本当にうれしそうに報告してくれたAさんの目は涙がいっぱいでした。私は胸がいっぱいになり、完治に向けて頑張ることを決意しました。

多くの人が病気と闘っています。本人はもちろん、家族も医療スタッフも懸命です。回復には医療の力が不可欠ですが、人の力、言葉の力、愛の力の大きさをしみじみと感じるのです。

*このシリーズは、私たち一人一人が自分を大切にし、互いに認め合って、かけがえのない人生を幸せに生きるために、日々の暮らしの中で、人権について多様な視点で考えることを目的にしています。

お問い合わせは
人権啓発広報委員会
(880・6569)まで